

Introduction to Original Paper of JIMA on MS-Word - Sample File -

Taro KEIEI ^{†1}, Hanako KEIEI ^{†2}, Manabu KEIEI ^{†1} and Ichitaro KEIEI ^{†3}

Abstract

This commentary is a guide of the Original Paper to producing a draft to be submitted to Journal of Japan Industrial Management Association, and the final camera ready manuscript of a paper. An author who wants to write a paper using MS-Word must read and follow advice in this commentary.

Key words: Camera-ready manuscripts, Japan Industrial Management Association, MS-Word

^{†1} Japan Industrial Management Association

^{†2} Management University of Tokyo

^{†3} Center for Academic Publications Japan

Received: May 1, 2021

Accepted: March 1, 2022

日本経営工学会論文誌「原著論文」MS-Word 解説

- サンプルファイル -

経営 太郎^{†1}, 経営 花子^{†2}, 経営 学^{†1}, 経営 一太郎^{†3}

本稿では、日本経営工学会論文誌への投稿に際し、原著論文のカメラレディ原稿を作成する際に留意すべき項目について解説している。MS-Wordを利用して原稿を執筆する場合は、必ずこの解説を読み、その指示に従う必要がある

キーワード：カメラレディ原稿，日本経営工学会，MS-Word

1. はじめに

このファイルは MS-Word を利用して作成する原著論文のサンプルファイルである。本ファイルに記述してある規則に従い、その中身を書き換えることで、カメラレディの原著論文原稿を作成することができる。

このサンプルファイルには不具合や問題点等が含まれている可能性がある。その様な場合は学会誌刊行センターにご連絡願いたい。

連絡先：

〒113-0032

東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル
(財) 学会誌刊行センター (担当：室健次郎)

TEL: 03-3817-5821

FAX: 03-3817-5820・5830

2. 論文の体裁

2.1 ページ設定

用紙は A4 サイズ (210mm×297mm) 縦置き、ページ余白は上：30mm，下：30mm，左・右：18mm とする。

原稿は横書きとし、和文には明朝体およびゴシック体フォント、英文には Times 系フォント、ギリシャ文字には Symbol フォントを用いることを原則とする。なお、本稿で用いているフォントは、明朝体：MS 明朝，ゴシック体：MS ゴシック，英文：Times New Roman である。

2.2 英文表紙

タイトルは 16pt，サブタイトルは 14pt とし、いずれ

も中央揃えにする。著者名は 12pt，中央揃えとし、ファミリーネームはすべて大文字（先頭以外は小型大文字）とする。英文要旨 (200~300 語) およびキーワード (5 個程度) は 12pt，左揃えとする。各項目間の行間はそれぞれ 4pt，24pt，16pt，12pt，20pt とする。著者所属は脚注に 12pt，左揃えで記述する。

2.3 本文

タイトルは 16pt，サブタイトルは 14pt，著者名は 12pt とし、すべて中央揃えにする。著者名の姓と名の間には半角 1 文字分の空白を入れる。要旨 (300 字以内) とキーワード (5 個程度) は 10pt，左揃えとする。著者所属は脚注に 8pt，左揃えで記述する。

各項目間の行間はそれぞれ 6pt，14pt，14pt，12pt とし、キーワードの後に 32pt の行間をとり、以下に従って本文を記述する。

本文は 2 段組みとし、段間は 7mm とする。最終ページは、片段に文字が集中せず左右の段に文字がバランス良く配置されるよう工夫する。文字サイズは 10pt，行間は 14pt とする。

2.3.1 見出し

見出し (大・中・小) は、番号は英文フォント・太字，タイトルはゴシック体・太字で記述する。大見出し (例：1. 大見出し) のフォントサイズは 11pt とし、番号・空白を除く項目表記が全角 6 字以下の場合、全角 7 字分に均等割り付けする。中見出し (例：1. 1 中見出し) ・小見出し (例：1. 1. 1 小見出し) の番号・空白を除く項目表記が全角 4 字以下の場合、全角 5 字分に均等割り付けする。

大見出しは上下にそれぞれ 15pt，8pt の行間をとり、中見出しは上に 15pt の行間をとる。ただし、見出しが段の開始行に配置される場合は、見出しの上の行間は空けないこととする。また、大見出しの次の行に中見出しが配置される場合は、両者の行間は 8pt とする。

本文中で見出しを引用する場合は均等割り付けせず、

^{†1} 日本経営工学会

^{†2} 東京経営大学

^{†3} 学会誌刊行センター
受付：2021年5月1日
受理：2022年3月1日

表1 表のサンプル

	列1	列2	列3
行1	あ	い	う
行2	え	お	か
行3	き	く	け

ゴシック体・太字で表記する。見出しが各段の末行に来た場合は、行送りして先頭行に配置する。

2.3.2 箇条書きについて

箇条書きの例を以下に示す。

- 番号なし項目 1
- 番号なし項目 2

番号付き箇条書きの例を以下に示す。

- (1) 番号付き項目 1
- (2) 番号付き項目 2

2.3.3 文献の引用

本文中の文献引用は[1]や[2],[7], [3]~[6]のように表記する。なお、参考文献の表記については論文執筆細則(注1)に示した規則に従って記述すること。

2.3.4 図・表について

図・表は原則として最初に本文中で引用したページ内に配置する。図1, 表1のように図表番号を付け、タイトルとともにキャプションとして図は下部、表は上部に記す。図表番号部分はゴシック体、タイトルは明朝体で表記する。

キャプションと図・表の間には4pt, 本文との間には8ptの行間をとることとする。

2.3.5 数式について

複雑な数式は、各種の数式作成ツール(注2)を用いて作成することを原則とし、おおよそ下記の例に沿った形で記述する。

(数式エディター3.0(Microsoft Equation 3.0)使用例)

$$s^2 = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 \quad (1)$$

式を左段端から6mm下げ配置し、数式番号を右段端から3mm空けて表記する。また、数式の上下には8ptの行間をとる。

(Microsoft数式使用例①独立数式)

$$s^2 = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 \quad (1)$$

独立数式で記述した場合は、数式が片段の中央位置

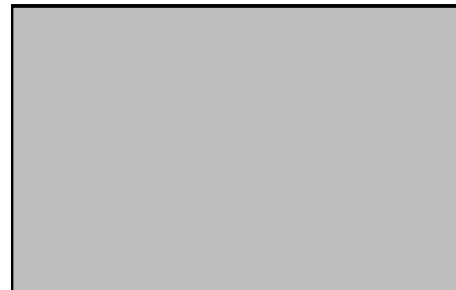


図1 図のサンプル

になるため、数式番号を次の行の右段端から3mm空けて表記する。また、数式の上に8ptの行間をとる。

(Microsoft数式使用例②文中数式)

$$s^2 = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 \quad (1)$$

文中数式で記述した場合は、式を左段端から6mm下げ配置し、数式番号を右段端から3mm空けて表記する。また、数式の上下には8ptの行間をとる。

2.4 その他の注意事項

- クォーテーションは「“ ”」「 ’ 」の組合せで使用のこと。
- 英文や数字には全角は使わず、半角を使用のこと。
- 句読点は、和文では全角の「.」「,」を、英文や数式内では半角の「.」「,」を使用のこと。

3. おわりに

本稿では、MS-Wordにより日本経営工学会論文誌原著論文のカメラレディ原稿作成する際の留意事項について解説した。原稿を執筆する際は、論文執筆細則も熟読されたい。

注

- (1) 論文執筆細則は日本経営工学会ホームページからダウンロードできるので利用されたい。
- (2) Office 2016以前のMicrosoft Wordには「Microsoft数式エディター(Microsoft Equation 3.0)」がインストールできたが、2018年1月以降は、この機能が使えない環境に変更されている。本稿では、MS-Word 2007以降に標準装備されていたMicrosoft数式3.0を用いた記入例に加え、新しい「Microsoft数式」による記入例を示す。なお、MathTypeを利用する際には、数式エディター3.0使用例を参考にされたい。

参 考 文 献

- [1] 枇々木規雄, 田辺隆人: 「ポートフォリオ最適化と数理計画法」, 朝倉書店 (2005) (ISBN-13: 978-4254295559)
- [2] 日本経営工学会 (編), 日本インダストリアルエンジニアリング協会, 日本技術士会経営工学部会 (編集協力): 「ものづくりに役立つ経営工学の事典: 180 の知識」, 朝倉書店, pp.1-20 (2014) (ISBN-13: 978-4254270228)
- [3] 山本祐子, 圓川隆夫: “顧客満足度とロイヤリティの構造に関する研究”, 日本経営工学会論文誌, Vol.51, No.2, pp.143-152 (2000) <https://doi.org/10.11221/jima.51.143>
- [4] 曹徳弼, 佐野浩子: “ロバスト最適化手法を用いた電力施設拡大に関する研究”, 日本経営工学会平成 21 年度春季研究大会予稿集, pp.50-51 (2009)
- [5] Hopp, W. J. and Spearman, M. L.: *Factory Physics* (3rd ed.), Irwin Professional Publishing, Burr Ridge, IL, pp.14-48 (2008) (ISBN-13: 978-0072824032)
- [6] Lee, H. L., Padmanabhan, V. and Whang S.: “Information distortion in a supply chain: The bullwhip effect”, *Management Science*, Vol.43, No.4, pp.546-558 (1997) <https://doi.org/10.1287/mnsc.43.4.546>
- [7] Orito, Y. and Yamamoto, H.: “Index Fund Optimization Using a Genetic Algorithm and a Heuristic Local Search Algorithm on Scatter Diagrams,” *Proceedings of IEEE Congress on Evolutionary Computation*, pp.2368-2374 (2007)

付 録

必要に応じて付録を記載する。場所は参考文献のあととする。

改 定

- 2018.10.27 Microsoft 数式エディターの環境変更による数式作成の規定変更
2021.03.07 参考文献記述の変更